

グループホーム あるて
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000173		
法人名	社会福祉法人 北叡会		
事業所名	グループホームあるて		
所在地	江別市上江別476番地4		
自己評価作成日	平成26年2月7日	評価結果市町村受理日	平成26年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=0191000173-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中で、安心した生活を送って頂けるよう、明るく家庭的な雰囲気の中で「ゆとりの時間」を大切に支援を行っている。それぞれのご利用者の生活歴の把握に努め、趣味活動や運動、調理や家事なども一緒に行うことで、主体的に自己決定をしながら生活できるような援助に努めている。

医療面では、協力医療機関との密な情報交換に努め、体調不良時の相談や速やかな受診対応が出来る体制を整えている。職員の教育に関して、2週に1回の外部研修会参加や、内部での研修開催により、基本ケアの理論を中心に学び、日々の生活の中で理論を実践するとともに、毎月のカンファレンスやミーティング開催により、ケアの見直しやリスクマネジメント等を行い、ご利用者やご家族、外部の方が満足できるサービス提供に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームあるて」は、江別市郊外の自然に恵まれた閑静な住宅地に立地している。1階に同法人のデイサービスがあり、2階がグループホームになっている。建物内は明るく開放感があり、トイレや浴室などは居間から見えにくい場所に配置してプライバシーに配慮したり、天井を利用したパネル暖房を使用するなど工夫した造りになっている。共用空間の清掃も行き届いており、利用者が健康的に過ごせるような環境整備が行われている。法人のバックアップ体制の下、災害種別に応じたマニュアルをはじめ、各種のマニュアルを整備して計画的に研修を行うなど、職員の育成にも力を入れている。高校生や地域のボランティア、保育園児が定期的に来訪するなど、外部との交流も積極的に行われている。運営推進会議は、年間テーマを設定して毎回案内を送付し、電話でも出席を依頼するなど更なる家族の参加に繋がるような取り組みも行われている。毎月、介護計画に沿って全利用者の振り返りを行いながら、3か月毎に詳細なアセスメントを実施して個々の残存能力に応じた個別支援を行うなど、利用者中心の温かなケアが行われている。職員は温もりのある言葉がけを行いながら、少しの時間でも利用者と共に楽しめる時間を作るように工夫して家庭的な楽しい日々を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(きらら館 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価(きらら館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域環境において、家庭的な雰囲気の中でゆったりと穏やかな時間を大切にするという理念を掲げている。職員は名札に理念を常時携帯しており、理念を意識するようにしている。毎月のミーティングやカンファレンスにて、振り返りを行う時間を設けている。	事業所理念を基に作成したケア理念の中に、「地域の中でゆとりとその人らしく暮らしていただきます」という、地域密着型サービス内容が含まれている。カンファレンスやミーティング時に、理念を踏まえながら、各利用者の残存能力に合わせた適切な支援を検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議やお祭り等の行事を通して、地域の方にも参加して頂き、地域との交流や意見交換の機会を設けている。また、火災発生時等の際に地域の方にも協力依頼ができる体制を設けている。	地域の傾聴ボランティアや高校生の読み聞かせボランティアなどが訪れている。保育園児が来訪して歌や踊り、楽器演奏など見せてくれたり、利用者と一緒に運動会を見学に行くなど、保育園と定期的な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で資料などを準備し、参加者の方々と認知症の理解を深めるよう取り組んでいる。また、ご家族の面会時を通じて、認知症についての説明や当施設の取り組みや支援方法についての説明を随時伝えていく体制を整えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実施状況や発生した事故・その後の対策を毎回報告し、意見を頂きサービスの向上につなげていけるよう努めている。また、避難訓練や行事についても運営推進会議と重ねて実施し、積極的に意見を頂き、周知・実施する体制を設けている。	感染症や災害対策、認知症の症状や対応の仕方など、参加者に役立つ内容のテーマを年度初めに設定し、2か月毎に開催している。開催案内と議事録を全家族に送付している。更なる家族の参加に繋がるように、電話で出席を依頼したり参加しやすい日時などを尋ねている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当法人の月刊広報誌や運営推進会議の報告書を持参し、グループホームの状況を理解して頂けるようにしており、情報交換を行うことにより、相談しやすい関係作りを行なっている。	管理者は、毎月の現状報告や運営推進会議の議事録の提出などで積極的に役所を訪問して協力関係を築いている。家族の課題や事故対応など、役所が得ている情報を聞きながら運営やケアの向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部で開催される研修の他、ミーティングの際にも身体拘束の定義や身体拘束をしないケアについての理解を深めている。また、カンファレンス時に身体拘束つながっていく恐れはないかどうか、話し合っている。	禁止の対象となる具体的な行為と身体拘束廃止のための5つの方針などを入れた、法人独自の身体拘束マニュアルを整備している。カンファレンスなどで事例検討しながら、拘束のないケアに取り組んでいる。3月の勉強会で、具体的な行為11項目についても再確認する意向である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部で開催される研修の他、毎月のミーティングやカンファレンス時に、普段の接遇について振り返る時間を設け、不適切なケアになっていないかを点検する時間を設けている。		

グループホーム あるて

自己評価	外部評価	項目	自己評価(きらら館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での研修に参加する機会はなかったが、制度をご利用されているご利用者様もおり、内部での研修を開催して理解を深めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は、ご家族様と十分に話す時間を設けるよう心掛け、不安や疑問を解消できるよう努めている。また、入居後に関しても、できるだけ細かい状況をお伝えしながら、相談しやすい体制作りに努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や定期的アンケートの実施、ご意見・ご要望に関する書式の配布も実施し、内容を確認している。ご利用者・ご家族から寄せられた意見に対しては、速やかに臨時のミーティングを開催し、自部署のみならず法人として対応を検討していく体制を整えている。	法人として、具体的な項目内容で毎年家族アンケートを実施している。介護計画の説明時や家族の来訪時に近況を伝えて意見や要望を聞き取るように工夫したり、お便りと一緒に意見用紙を同封して意見収集に努めている。意見や要望は申し送りノートなどに記録している。	家族からの意見や要望を個人別に綴るなど、職員間で常に共有できるような記録方法の検討を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から各職員との密なコミュニケーションに努めるとともに、ミーティングやカンファレンスにて職員との意見交換の場を設け、意見・提案を聞き、検討する時間も設けている。	施設長や管理者は、日頃から職員の話に耳を傾けると共に、会議に参加できない職員の意見や提案も事前に聴き取るように配慮している。業務内容の変更や備品類の補充など、職員からの提案を受けて運営やケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を定期的実施し、職員個々の意見を聴く機会を設け、不安やストレスを解消できるような環境作りに努めている。また、処遇改善等により職員へ反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験にあった外部研修への参加を呼びかけ、研修内容を報告する機会を設けている。また、内部研修や法人の研修会では、多くの職員に参加して頂けるよう、積極的に呼びかけている。採用後はスキルアップの為に資格取得のサポートを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホームとの交流会やパークゴルフ大会を通じて、意見交流や情報交換を行える機会を設けている。また、2ヶ月に1回市内の各グループホームの管理者が集まる会に参加し、他施設への相談、情報交換の機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(きらら館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に関係機関(居宅)や他施設の情報を確認をした後に、ご本人と可能な限り時間をかけ、面談し、些細な不安等を理解するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族、ご本人にはできるだけ入居前に当施設を見学して頂き、十分な理解が得られた後に入居申し込み・入居へ繋げている。また、ご家族の利用に対する思いをお話して頂けるよう、面談等にて働きかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人の意向を十分把握できるよう、面談等でライフスタイルや望んでいる環境等を総合的に評価し、他のサービスも考慮しながらサービス利用に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者本位の姿勢を崩さず、これまでのライフスタイルを継続していけるような支援や家事・買い物等、ご利用者ができることは参加して頂き、ご利用者の自己決定を尊重している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時において、ご利用者の現状をお伝えし、ご家族の意向等を確認したうえで、ケアの方向性を考えている。また、出来る限り面会や外出・外泊をご家族に行って頂けるようお伝えし、ご家族とご利用者が接する時間の確保に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を考慮し、楽しく過ごされていた過去に話を合わせ、接するように努めている。また、外出や外泊をご家族に行って頂けるようお伝えしている。	職員と一緒に買い物に出かけたり、家族と食事やお墓参りなどに出かけている。知人から手紙やハガキが届く利用者もいる。日頃の会話から行きたい場所などを聞き取った場合は、家族に伝えて可能な限り意向に沿えるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや活動において、職員が仲介しながらご利用者同士が関わり合いを行うことに努めている。また、それぞれのご利用者の能力を生かせるような役割作りにも配慮するようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(きらら館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居に至った方については、不安や心配事があった際はいつでも連絡して頂けるように声をかけたり、連絡体制を整えている。また、医療機関等と連携を図りながら、今後のサービス利用についての相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の何気ない会話から、ご本人の意向や意見を聞き出せるよう努め、職員間で情報共有している。また、困難な方に関しては、ご家族から情報提供を頂き、ケアマネジメントにつなげるよう努めている。	現在、殆どの利用者は会話で意向を把握する事が可能である。分からない時は、日常生活の中の表情や反応で把握したり、家族から聴き取りをして本人の意向に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり、ご家族・入居前のケア担当者にも協力してもらい、差支えない範囲で過去の生活歴を口頭および書面にて聞き取るようにしている。又、ご本人との会話の中で、これまでのライフスタイルを確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングにて、一人ひとりに合った活動内容の検討や受診経過の把握に努めている。また、カンファレンス時に積極的に各職員の意見を聞き、チームケアを展開できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活において、ご利用者との関わりから、意向や希望を聞き出すように努めている。また、面会時にご家族より、要望や意見をお聞きし、話し合える環境を整え介護計画へ反映している。また、状況に応じて、随時介護計画を変更するよう努めている。	事前に家族の意向を聴き取り、毎月の振り返りや課題分析シート記録などを基に、計画作成担当者が中心となり3か月毎に介護計画の見直しを行っている。生活記録用紙の書式を変更して、介護計画を意識した日々の記録に取り組んでいるが、書式が活かされた記録までには至っていない。	生活記録の項目を活かしながら、介護計画と連動した記録が日々行われるように期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にて、ケアプランの実施やご利用者の反応等を記載していき、職員間で情報共有することにより、介護計画の見直しへ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の心身状態に合わせた個別ケアについて、ミーティングやカンファレンス時において、話し合う時間を設け、柔軟に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への積極参加に努めており、当施設での行事についても参加の案内やお声を掛けさせて頂いている。また、積極的にボランティアの受け入れを行なっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の意向を尊重し、かかりつけ医の受診を継続できるよう努めている。また、協力医療機関での訪問診療や突発的な受診に備え、日頃からご利用者の情報提供を欠かさずに行なっている。	内科以外の専門医は、各利用者のかかりつけ医を継続している。職員が受診支援を行い、日頃の健康状況を医師に伝えている。健康状態の変化に応じて、家族が受診に同行する事もある。受診記録は個別に記録している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(きらら館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の情報を密に伝えていき、適切な助言を頂いている。また、看護師への連携、連絡体制を整えており、緊急時に備えた環境を整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係医療機関と密な連携をとったり、状態確認を定期的に行い、状態把握に努めている。また、医師からご家族への病状説明の際は、同席させて頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には入所の事前説明の際に重度化に関する対応指針についての説明を行っており、理解して頂いている。体調や状態に変化があった際には、医療機関と連携し対応している。	「重度化に関する対応指針」を作成して、利用開始時に説明している。常時医療行為が必要になった場合は対応が困難になるが、主治医の判断の下、家族と本人の意向に沿って可能な限り看取りを行う旨を伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には、連絡体制を整えており、周知している。また、学習会を行い、全職員が急変時の対応を行えるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中と夜間の避難訓練を行っており、避難経路や連絡体制、災害時の対応方法を全職員で確認している。また、地域の方にも参加して頂くよう声を掛けさせて頂いたり、自治会への応援要請の協力をお願いしている。	デイスサービスと合同で日中想定火災避難訓練を行い、夜間想定火災避難訓練は、事業所独自で地震と火災を想定して実施している。消防署や地域住民も参加するなど、地域との協力体制も整えられている。職員の救急救命訓練を年1回実施し、備蓄品の充実も図られている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士声を掛け合い、ご利用者に対しての言葉遣いの確認や声の大きさ、トーンを注意し合えるよう努めている。	ミーティングなどで言葉遣いを確認し、職員間の会話も利用者が耳にして不愉快にならないよう、丁寧に交わしている。申し送りは事務室で行い、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全職員が利用者本位の姿勢をとり、ご利用者の根本にある気持ちを聞き出せるよう努め、自己決定を優先している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人にその都度確認するとともに生活習慣の把握に努めている。また、一人ひとりのペースを保てるよう、ミーティングやカンファレンスにて、検討する時間を設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご持参された化粧品等に関しては、日常生活で使えるように援助している。身だしなみについては、できることはご本人に行って頂けるよう援助している。		

グループホーム あるて

自己評価	外部評価	項目	自己評価(きらら館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の出来る能力を見極めながら、調理活動を行って頂けるよう支援している。また、旬の素材を取り入れる等、工夫をし、季節感を味わえるよう努めている。	法人の管理栄養士が、献立に行事や誕生日の特別メニューを入れて作成している。外食の他、屋外でバーベキューを楽しむこともある。利用者に、炒め物や盛り付けをお願いしている。食器選びや盛り付けの工夫で食事に彩りを添えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成したメニューに沿って調理し、栄養バランスは保たれている。食事状況等について栄養管理委員会を設け、満足度の高い食事提供に努めている。水分量は、記録しながら管理し、十分確保できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行って頂けるよう、声かけしている。できる限りご本人に行って頂き、最終確認をさせて頂いている。義歯を使用している方は、夜間帯にできる限り付け置き洗浄させて頂いており、清潔な状態に保たれている。必要時、訪問歯科受診も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はおむつを使用せず、トイレでの排泄ができるよう支援している。排泄チェック表にて、排泄リズムを管理し、一人ひとりにあった排泄パターンを調べ、排泄の自立に向けアプローチしている。	全員の排泄状況を記録し、昼夜ともトイレでの排泄を基本に、日中は布パンツやパットの使用で過ごすのを目標にしている。仕草や間隔を見て周囲に分からないように声かけや誘導を行い、羞恥心に配慮して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取量を確保すると共に、便秘傾向の方に関しては、運動を行う機会を持てるよう支援している。また、排泄チェック表にて排便確認をし、状況に応じて医療機関へ相談できる体制を整えている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やその日の体調により、実施しており、柔軟な対応に努めている。また、ご本人の体調や疾患を考慮しながら、ゆっくり入浴できるよう努めている。	週6日間を入浴日とし、午後3時頃から夕方までに、週に一人3回を基本として入浴を支援している。入浴を嫌がる利用者も気分よく入れるように、タイミングや声かけを工夫する事で週2回以上の入浴が実施できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を考慮し、ご利用者ごとの就寝準備を進めるとともに、体調や体力によっては昼夜問わず休息して頂ける時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容や用法、用量、副作用が明記された用紙をファイルに綴り、全職員が確認できるようにしている。また、状態変化が生じた場合は、相談や受診ができるよう医療機関との連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	運動という共通の要素を核とし、ご利用者ごとの生活歴(職歴・趣味など)を基に役割作りに努めている。		

グループホーム あるて

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(きらら館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせた外出行事の他、買い物やパークゴルフなど、ご利用者やご家族の希望に沿った支援に努めている。運営推進会議においても、希望や助言を頂くよう努めている。	暖かい時期には車椅子の人と一緒に、広い敷地周辺を散歩し、ほぼ毎日のように外気に触れている。百合が原公園、開拓記念会館、旧町村農場見学などに出かけ、外出行事を積極的に行っている。冬季も買い物に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的な買い物での金銭管理の支援や、行事において、ご家族やご本人の希望がある際は、お小遣いを所持できるよう環境を整え、使用していけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人や知人とのやりとりの希望がある際は、ご家族にも確認のうえ、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ミーティングやカンファレンス時において、検討する時間を設けている。また、運営推進会議やアンケートなどでご家族からも意見を頂き、検討する様努めている。装飾に関しては、季節感のあるものを作成し、廊下等に貼り付ける等、常に環境整備を心掛け、居心地良く過ごせるよう配慮している。	共有空間は寛ぐ場と生活の場を分けて配置しており、居間にはゆったりしたソファや畳敷きのスペースもある。トイレや浴室は居間から離れて、廊下から少し奥まった所にドアがあり、プライバシーにも配慮した造りになっている。廊下や居間の壁には利用者の作品や行事の写真が飾っており、家庭的で温かな雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に関しては、自由に使用して頂けるよう、日頃からご利用者やご家族にお話している。また、居室にいる際は、無理に出てきて頂くような声は掛けないよう注意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具等に関しては、使い慣れた物を使用して頂けるよう声を掛けさせて頂いている。	居室にはクローゼットと壁にボードを取り付けて、自由に掲示できるように準備している。天井パネルによる暖房装置で室内の温度も調整している。室内にジュタンを敷いたり、馴染みの家具や小物類を持ち込み、家族の写真、作品などが飾ってある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の状態に合わせ、建物内の手すりや家具等の配置をミーティングやカンファレンス時に話し合える時間を設けている。また、ご家族やご利用者にも意見を頂いたり、相談できる体制を整えている。		

グループホーム あるて
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000173		
法人名	社会福祉法人 北叡会		
事業所名	グループホームあるて		
所在地	江別市上江別476番地4		
自己評価作成日	平成26年2月7日	評価結果市町村受理日	平成26年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0191000173-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「きらら館 ユニット」に同じ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(あかり館 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(あかり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域環境において、家庭的な雰囲気の中でゆったりと穏やかな時間を大切にするという理念を掲げている。職員は名札に理念を常時携帯しており、理念を意識するようにしている。毎月のミーティングやカンファレンスにて、振り返りを行う時間を設けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議やお祭り等の行事を通して、地域の方にも参加して頂き、地域との交流や意見交換の機会を設けている。また、火災発生時等の際に地域の方にも協力依頼ができる体制を設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で資料などを準備し、参加者の方々と認知症の理解を深めるよう取り組んでいる。また、ご家族の面会時を通じて、認知症についての説明や当施設の取り組みや支援方法についての説明を随時伝えていく体制を整えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実施状況や発生した事故・その後の対策を毎回報告し、意見を頂きサービスの向上につなげていけるよう努めている。また、避難訓練や行事についても運営推進会議と重ねて実施し、積極的に意見を頂き、周知・実施する体制を設けている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当法人の月刊広報誌や運営推進会議の報告書を持参し、グループホームの状況を理解して頂けるようにしており、情報交換を行うことにより、相談しやすい関係作りを行なっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部で開催される研修の他、ミーティングの際にも身体拘束の定義や身体拘束をしないケアについての理解を深めている。また、カンファレンス時に身体拘束つながっていく恐れはないかどうか、話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部で開催される研修の他、毎月のミーティングやカンファレンス時に、普段の接遇について振り返る時間を設け、不適切なケアになっていないかを点検する時間を設けている。		

グループホーム あるて

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あかり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での研修に参加する機会はなかったが、制度をご利用されているご利用者様もおり、内部での研修を開催して理解を深めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は、ご家族様と十分に話す時間を設けるよう心掛け、不安や疑問を解消できるよう努めている。また、入居後に関しても、できるだけ細かい状況をお伝えしながら、相談しやすい体制作りに努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や定期のアンケートの実施、ご意見・ご要望に関する書式の配布も実施し、内容を確認している。ご利用者・ご家族から寄せられた意見に対しては、速やかに臨時のミーティングを開催し、自部署のみならず法人として対応を検討していく体制を整えている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から各職員との密なコミュニケーションに努めるとともに、ミーティングやカンファレンスにて職員との意見交換の場を設け、意見・提案を聞き、検討する時間も設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を定期的実施し、職員個々の意見を聴く機会を設け、不安やストレスを解消できるような環境作りに努めている。また、処遇改善等により職員へ反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験にあった外部研修への参加を呼びかけ、研修内容を報告する機会を設けている。また、内部研修や法人の研修会では、多くの職員に参加して頂けるよう、積極的に呼びかけている。採用後はスキルアップの為に資格取得のサポートを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホームとの交流会やパークゴルフ大会を通じて、意見交流や情報交換を行える機会を設けている。また、2ヶ月に1回市内の各グループホームの管理者が集まる会に参加し、他施設への相談、情報交換の機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価（あかり館）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に関係機関（居宅）や他施設の情報を確認をした後に、ご本人と可能な限り時間をかけ、面談し、些細な不安等を理解するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族、ご本人にはできるだけ入居前に当施設を見学して頂き、十分な理解が得られた後に入居申し込み・入居へ繋げている。また、ご家族の利用に対する思いをお話して頂けるよう、面談等にて働きかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人の意向を十分把握できるよう、面談等でライフスタイルや望んでいる環境等を総合的に評価し、他のサービスも考慮しながらサービス利用に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者本位の姿勢を崩さず、これまでのライフスタイルを継続していけるような支援や家事・買い物等、ご利用者ができることは参加して頂き、ご利用者の自己決定を尊重している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時において、ご利用者の現状をお伝えし、ご家族の意向等を確認したうえで、ケアの方向性を考えている。また、出来る限り面会や外出・外泊をご家族に行って頂けるようお伝えし、ご家族とご利用者が接する時間の確保に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を考慮し、楽しく過ごされていた過去に話を合わせ、接するように努めている。また、外出や外泊をご家族に行って頂けるようお伝えしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや活動において、職員が仲介しながらご利用者同士が関わり合いを行うことに努めている。また、それぞれのご利用者の能力を生かせるような役割作りにも配慮するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(あかり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居に至った方については、不安や心配事があった際はいつでも連絡して頂けるように声をかけたり、連絡体制を整えている。また、医療機関等と連携を図りながら、今後のサービス利用についての相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の何気ない会話から、ご本人の意向や意見を聞き出せるよう努め、職員間で情報共有している。また、困難な方に関しては、ご家族から情報提供を頂き、利用者本位のケアマネジメントにつなげるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり、ご家族・入居前のケア担当者にも協力してもらい、差支えない範囲で過去の生活歴を口頭および書面にて聞き取るようにしている。又、ご本人との会話の中で、これまでのライフスタイルを確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングにて、一人ひとりに合った活動内容の検討や受診経過の把握に努めている。また、カンファレンス時に積極的に各職員の意見を聞き、チームケアを展開できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活において、ご利用者との関わりから、意向や希望を聞き出すように努めている。また、面会時にご家族より、要望や意見をお聞きし、話し合える環境を整え介護計画へ反映している。また、状況に応じて、随時介護計画を変更するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録にて、ケアプランの実施やご利用者の反応等を記載していき、職員間で情報共有することにより、介護計画の見直しへ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の心身状態に合わせた個別ケアについて、ミーティングやカンファレンス時において、話し合う時間を設け、柔軟に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への積極参加に努めており、当施設での行事についても参加の案内やお声を掛けさせて頂いている。また、積極的にボランティアの受け入れを行なっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の意向を尊重し、かかりつけ医の受診を継続できるよう努めている。また、協力医療機関での訪問診療や突発的な受診に備え、日頃からご利用者の情報提供を欠かさずに行なっている。		

グループホーム あるて

自己評価	外部評価	項 目	自己評価（あかり館）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の情報を密に伝えていき、適切な助言を頂いている。また、看護師への連携、連絡体制を整えており、緊急時に備えた環境を整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係医療機関と密な連携をとったり、状態確認を定期的に行い、状態把握に努めている。また、医師からご家族への病状説明の際は、同席させて頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には入所の事前説明の際に重度化に関する対応指針についての説明を行っており、理解して頂いている。体調や状態に変化があった際には、医療機関と連携し対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時については、連絡体制を整えており、周知している。また、学習会を行い、全職員が急変時の対応を行えるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中と夜間の避難訓練を行っており、避難経路や連絡体制、災害時の対応方法を全職員で確認している。また、地域の方にも参加して頂くよう声を掛けさせて頂いたり、自治会への応援要請の協力をお願いしている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士声を掛け合い、ご利用者に対しての言葉遣いの確認や声の大きさ、トーンを注意し合えるよう努めている。一人ひとりの生活環境を踏まえ、活動も静と動に配慮しながら行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全職員が利用者本位の姿勢をとり、ご利用者の根本にある気持ちを聞き出せるよう努め、自己決定を優先している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人にその都度確認するとともに生活習慣の把握に努めている。また、一人ひとりのペースを保てるよう、ミーティングやカンファレンスにて、検討する時間を設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご持参された化粧品等に関しては、日常生活で使えるように援助している。身だしなみについては、できることはご本人に行って頂けるよう援助している。		

グループホーム あるて

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(あかり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の出来る能力を見極めながら、調理活動を行って頂けるよう支援している。また、旬の素材を取り入れる等、工夫をし、季節感を味わえるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成したメニューに沿って調理し、栄養バランスは保たれている。食事状況等について栄養管理委員会を設け、満足度の高い食事提供に努めている。水分量は、記録しながら管理し、十分確保できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行って頂けるよう、声かけしている。できる限りご本人に行って頂き、最終確認をさせて頂いている。義歯を使用している方は、夜間帯にできる限り付け置き洗浄させて頂いており、清潔な状態に保たれている。必要時、訪問歯科受診も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はおむつを使用せず、トイレでの排泄ができるよう支援している。排泄チェック表にて、排泄リズムを管理し、一人ひとりにあった排泄パターンを調べ、排泄の自立に向けアプローチしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取量を確保すると共に、便秘傾向の方に関しては、運動を行う機会を持てるよう支援している。また、排泄チェック表にて排便確認をし、状況に応じて医療機関へ相談できる体制を整えている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やその日の体調により、実施しており、柔軟な対応に努めている。また、ご本人の体調や疾患を考慮しながら、ゆっくり入浴できるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を考慮し、ご利用者ごとの就寝準備を進めるとともに、体調や体力によっては昼夜問わず休息して頂ける時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容や用法、用量、副作用が明記された用紙をファイルに綴り、全職員が確認できるようにしている。また、状態変化が生じた場合は、相談や受診ができるよう医療機関との連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	運動という共通の要素を核とし、ご利用者ごとの生活歴(職歴・趣味など)を基に役割作りに努めている。		

グループホーム あるて

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(あかり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせた外出行事の他、買い物やパークゴルフなど、ご利用者やご家族の希望に沿った支援に努めている。運営推進会議においても、希望や助言を頂くよう努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的な買い物での金銭管理の支援や、行事において、ご家族やご本人の希望がある際は、お小遣いを所持できるよう環境を整え、使用していただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人や知人とのやりとりの希望がある際は、ご家族にも確認のうえ、支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ミーティングやカンファレンス時において、検討する時間を設けている。また、運営推進会議やアンケートなどでご家族からも意見を頂き、検討する様努めている。装飾に関しては、季節感のあるものを作成し、廊下等に貼り付ける等、常に環境整備を心掛け、居心地良く過ごせるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に関しては、自由に使用して頂けるよう、日頃からご利用者やご家族にお話している。また、居室にいる際は、無理に出てきて頂くような声は掛けないよう注意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具等に関しては、使い慣れた物を使用して頂けるよう声を掛けさせて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の状態に合わせ、建物内の手すりや家具等の配置をミーティングやカンファレンス時に話し合える時間を設けている。また、ご家族やご利用者にも意見を頂いたり、相談できる体制を整えている。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム あるて

作成日：平成 26年 3月 13日

市町村受理日：平成 26年 3月 24日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	10	運営推進会議や定期のアンケート調査などご意見・ご要望に関する内容は確認しているが、面会時や電話連絡時に寄せられたご意見・ご要望を、申し送りノート等に記載はしているものの個人別では記載はしておらず、今後も情報共有の為に記録方法を検討していく必要がある。	寄せられたご意見・ご要望に対して、職員全体で周知・把握できるようなシステムを構築し、質の高いサービス提供につなげる。	寄せられたご意見・ご要望を記録するための様式を作成し、職員が内容を確認、把握しやすい個人別の綴りを作成していくことで、常に情報を共有できる体制で取り組んでいく。	1ヶ月
2	26	より良いケアを提供できるように、3ヶ月ごとに利用者・家族の意向を確認しながら介護計画を見直しているが、現在使用している生活記録の様式が最大限活用されておらず、使用方法の再確認が必要である。	生活記録の使用方法の再確認により、介護計画と連動した記録ができる。	日々のモニタリングを実施しやすいよう、介護計画の各目標を生活記録に落とし込み使用していく。 また、記録用紙の記載の方法と記載例等について勉強会を開催していく。	3ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。